

あじま診療所小児科
医師 森 英一

小児



コーナー



子どもの事故防止

これまでも何度か「子どもの事故防止」について書いてきましたが、先日も画びょうを飲み込んでしまった10か月の子が来院しました。病気も予防が大切ですが、事故は予防が第一です。

事故は運が悪かったり、偶然に起こってしまって防ぎようがないと考えられがちですが、子どもたちの発達や行動パターンを良く知って、年齢にあった適確な対応をすることで、大部分の事故は防止できることが、明らかになってきています。

では、どういうことに気をつけたらいいのでしょうか？年齢によって少し違いはありますが、事故の種類としては誤飲（タバコ、薬品、おもちゃ等）・窒息（ビニール等）、転倒・転落（ソファ、ベッド、階段、遊具等）、やけど（ストーブ、ポット、熱い食べ物等）、水の事故、交通事故などが多くなっています。

すぐできることとしては、小さな子のいる家では、「危ない物や小さな物は子どもの手の届くところには置かない」「引っ張って、熱い飲食物が落ちてやけどをすることがあるので、テーブルクロスは使わない」「水深10cmでも溺れることがあるので、お風呂の残り水は抜く」「車に乗せる時は、後部座席にチャイルドシートを取り付けて使用する」などがあります。

母子手帳にも簡単ですが『事故の予防』について書いてありますし、年齢別や、場所別の『安全チェックリスト』も出されているので、そういったものを利用したり、子どもの目線で家の中を見直してみ、事故を未然に防ぐようにしましょう。